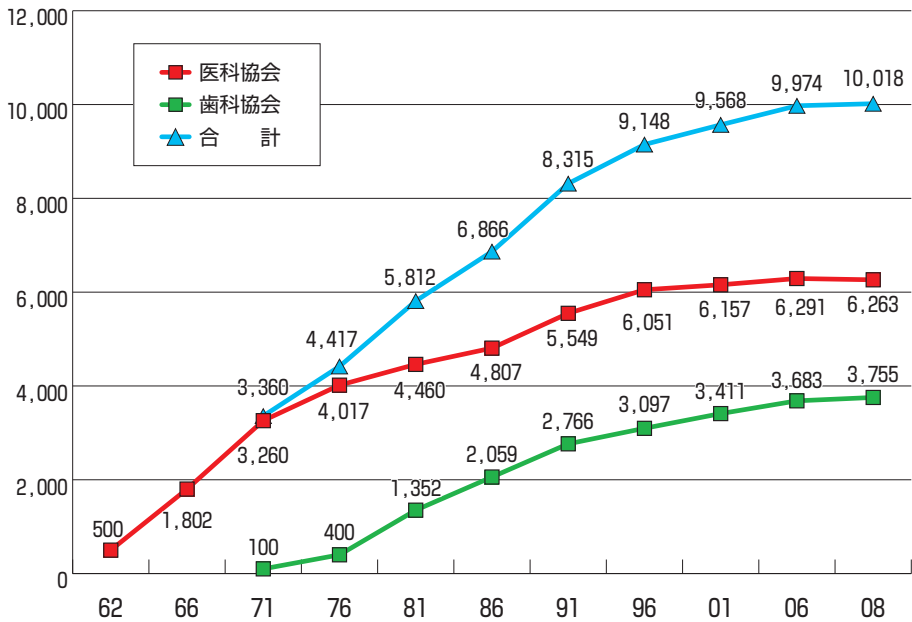


歯科・医科会員数の推移



全国保険医団体連合会会長



住江 憲勇

大阪歯科保険医新聞発行1000号、誠におめでとございます。ここに至る大阪府歯科保険医協会のご努力、ご奮闘に心から敬意を表させていただきます。また、保団連の諸活動・運動についても毎々、先見的・先進

的役割を發揮していただいていることにも、厚くお礼申し上げます。文字通り機関紙とは、会員への情報伝達という役割と、会員一人ひとりが寄稿・投稿を通じて自身の日常の臨床経験や、日常の喜怒哀楽を吐

露されて、それを3759人(09年1月1日現在)の会員で共有・共感し合える場としての役割、即ち、協会、役員、会員そして事務局との統一と団結を築き上げ強固にする場でもあります。近年の低診療報酬・低医療費政策の下で、開業保険医は経営維持のためますます長時間診療従事を余儀なくされ、会員自身の地域における医療実情、患者、住民の実態は見えても、府下の、全国的視野を持つことはほとんど不可能といわざるを得ません。このことを補うべく弛むことない不断の粘り強い、そして機敏な機関紙活動が求められています。

大阪府保険医協会理事長



高本 英司

大阪歯科保険医新聞1000号達成おめでとうございます。30年以上に亘って、絶えず企画を練られてこれた役員の方々、現場の声を原稿にして届けられた会員の先生方、裏方で支え続けてこられた事務局員など、関係者の方々のご努力にまず敬意を表したいと思います。

継続は力なりと言いますが、継続するためには、絶えず心を揺さぶり涵めることのない大きなエネルギーの存在と、現実から出発し絶えず未来を見つめる冷静で強い意志がなければなりません。しかし人間ひとりひとり、それほど強くもなく、いつも熱い心を持ち

続けられる存在ではありません。その弱点を克服するものとして、同じ志を持つ集団の、時代を繋ぐその時々パトスとロゴスの発露としての貴会の新聞の存在があったのだと思います。その果たす役割は、いかなる状況においても社会的に極めて重要です。大阪保険医新聞は1651号を迎えますが、政治災害である現状の医療福祉分野の荒廃を憂え、未来に希望の灯をともそうとするまなざしは、大阪府歯科保険医協会と同じです。医科医療、歯科医療を担う両協会とともに、安心して暮らせる土台となる人々の健康を守り増進させるための、大阪における心棒の役割を果たすものです。

1000号を達成されたく、さらに患者、住民の思いに寄り添いながら、ますます内容を充実され全国を代表する大阪府歯科保険医協会の機関紙として発展されることを期待しエールを送りたいと思います。

元新聞部長・現部員



篠部 正夫

30代始めの頃、中井部長の広報部の末席に加えてもらった。当時部会では首相の名を呼び捨てで政治談義をよくやった。立山部長になり、コラムなど執筆の機会をたくさん与えられた。岸部長の後を襲って私

が部長を拝命した時に、月3回発行になり広報部から新聞部に名称を変え、新聞のロゴマークも粋な現在のスタイルに変えた。その後、家族の大病や両親の死や地震や協会内部の論争や不祥事というんな事があったが、

部長の椅子はオン&オフで新聞部に席を置き続けた。部長の時は貴重な紙面を独占私物化しないように遠慮するが、部員の方が執筆量が増え、ある年数えてみたら43本に及んでいた。長い間には多少の喧嘩やトラブルや不快な事もあったはずだが、鈍い私は傷付くことも激高することもなく、馬鹿みたいに機嫌よくやってきた。新聞部の仕事は会員読者のための公務だから仲良しクラブでは困るのだが、長く継続するには必要なことと自己証明している。DNAは磁気メデ

素面の議論は苦手なほうだ。議論は百出するが、結論は出ない。結論するには大半選手での決着が必要となる。私もそうだが、これまで博打の好きな新聞部員はいなかった。最近の私は風邪や喘息や腰痛や部会を欠席する事も多いが、お呼びのある間は有り難く思っています。今後も参加し続けるつもりである。

現在新聞部は矢部部長を中心に、困難な時代に立ち向かっている。今尚現役ながら、これまで長年新聞部を通じて、青春の一場面一時期を熱中し励ましあって共に過ごした昔の友人達への感謝の気持ちには忘れられない。



300号(87年7月)=記念号として赤と黒の2色刷りで発行され、当時の会員数は2234人であった



200号(84年6月)=「1カ月で会員50人」と急速に組織率を高める様子を報道している